

保育目標		・夏の自然や生き物に親しみ、夏ならではの遊びを満喫する。・水分補給をしたり、休息を取るなど暑い中で健康的に過ごす。			
子どもの姿		・暑さに少しずつ慣れ、元気いっぱい遊ぶ。・夏の昆虫採集などに関心を持ち、世話を楽しむ。			
年間区別		ねらい	環境・構成	予想される子どもの活動	配慮事項
教育	健康	・水分補給を定期的に行い、夏バテの予防に努める。 ・疲れたり、汗をかいたら十分に休息を取り、ゆっくり過ごす。	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症や夏バテに配慮して、水分補給を定期的に行えるよう水筒を持ち運ぶようにする。 ・子ども同士で遊びを作っていくように、ペットボトルやジョウロなど身近なおもちゃを準備する。 ・室内遊びの際に、ゆったり過ごせるスペースを確保して、マットを敷いたリクッションを用意する。 ・エアコンを使用して適切な温度管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏バテで熱を出して休む子が出てくる。 ・汗をかいても遊びに夢中になる子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力や様子を気にかけて、汗をかいていたら拭いたり水分補給ができる環境を作る。 ・夏休み期間で欠席者が多くなるため、来ている子が寂しさを感じない配慮をする。
	人間関係	・大人を介さずに友だち同士で遊びを広げていく。 ・お盆休みでは、ご先祖様の存在を知り、家族との時間を作る。		<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの輪が広がり、子ども同士で遊びが成立するようになってくる。 ・家族との夏の思い出を話すようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が介入しすぎないように、子ども同士のやりとりを見守りながら間違いがあれば正していく。 ・家庭での思い出話をよく聞いて、共感する言葉掛けをする。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・暑さや水遊びで疲れた時は室内で寝転んだり、身体をゆったり休めるスペースで過ごす。 ・絵本や図鑑を通して夏の生き物を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・外で遊び疲れたあとは、給食中にねむってしまったり、体力が持たない子が出てくる。 ・昼寝の時間を長めに必要とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児は体力に差があるため、一人一人に配慮しながら過ごす。 ・昼寝の時間は眠れない子も横になって身体を休める時間にする。
	言語	・夏ならではの絵本を読み、季節感を知る。		<ul style="list-style-type: none"> ・夏の生き物の絵本や、図鑑に夢中になって世話を頑張る子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カブトムシやクワガタが手に入る機会があればクラスで飼育して、観察したり触ったり出来るように環境を作る。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りで盆踊りを楽しく踊る。 ・色水を混ぜたり、注いだりして自由に遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊りや夏の歌を通して楽しく表現する。 ・イメージした色や形を作り上げることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏らしいカラフルな色使いを自由に楽しめるように進めていく。 ・夏ならではの曲に合わせて身体を動かすことを楽しめるよう、歌詞にも注目しながら進めていく。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜を食べたり、栄養のある食材を意識して食べる。 ・野菜がテーマの絵本や歌を通して親しみが持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食べ物を知ることができる絵本や図鑑を準備しておく。 ・もぎたての野菜を食べる機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳しく知っている野菜や果物に関心を持つようになる。 ・生野菜は苦手でも、カレーなどに入っていると食べられるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜が苦手な子どもがいるため、まずは断面図を見せたり、野菜の向き方を伝えたりと親しみが持てるようにすすめていく。 	
健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・室温、換気に気をつけて常に保育室の状態を把握できるようにする。 ・体調が悪いことを自分で伝えられない、気づかない子もいるため、こまめに全員の様子をチェックしたり、非接触の体温計を用いて体温チェックを行う。 				
保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での十分な睡眠時間の確保を促す。 ・長期休みになる子は生活リズムが大きく崩れない様に伝えていく。 				